

6月号

ハニ養だより



青森県立八戸第二養護学校
令和8年5月22日

「伝える」

校長 西里 俊文

朝の登校時間が終わり、各教室での学習が始まります。

私は時々、児童生徒の皆さんがどんな学習活動をしているか、廊下から様子を眺めています。

廊下を歩いていると、近くに寄ってきて覚えている英語の歌を一生懸命に歌って聞かせてくれる女の子、私のところへやってきて、教室に入って今日勉強したことを指差ししながら紹介してくれる男の子、ALTの先生と一緒に勉強した英語のあいさつを嬉しそうに教えてくれる男の子など、みんな思い思いに、自分が学んだことやできるようになったことを、全身からみなぎるエネルギーで伝えてくれます。

子どもたちの放つパワーを肌で感じ、そのまっすぐな姿にいつも深い感動を覚えます。

「すばらしかったね」「とっても素敵だよ」「かっこいい！」伝えてくれた子どもたち一人一人に、私も全力で応え、気持ちを伝えています。

お互いが気持ちを伝え合い、それが相手に伝わったときのうれしさは、これから豊かな社会生活を送る上での大きな基盤となるものと思います。

毎日のちょっとした出来事かもしれませんが、こうした温かい営みをこれからも大切にしながら、子どもたちの健やかな成長を日々楽しみに共に歩んでまいります。

